

【目次】 はじめに

- 1 新たな時代の社会教育
(社会状況や現状と課題など)
- 2 社会教育に関わる多様な人々
- 3 社会教育におけるネットワークづくり
まとめ

「新たな時代における社会教育のあり方ー多様な人々がつながるネットワークづくりを通してー」

～テーマ設定背景～

グローバル化やICT等のネットワークの進展、少子高齢化による社会の変化、SDGs、コロナ禍など、いずれの事象も人と人とのつながりが問われてきた。社会教育は人々の学ぶ意欲、人々のつながりによって紡がれてきたものであり、新たな時代における人々のネットワークづくりに寄与できると考える。多様な人々がつながるネットワークづくりに主眼をおき、社会教育の学び手や学びを支える人々に対する支援、人々のネットワークの作り方などの具体的な方策を示す。



2章

内容：多様な人々がつながるネットワークづくりに主眼をおき、社会教育の学び手や支える人々それぞれの環境を踏まえた学びのあり方や支援策

学ぶ人

子供・中高生

- ・コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の一層の推進、子ども達の地域での学びや活動の場のさらなる充実に向けて、地域コーディネーター同士や学校との関係づくり、地域の関係者との情報共有等の機会を増やす。
- ・子ども達が自発的・主体的に企画運営側の役割を担えるような促し。

若年層・学生・社会人・子育て世代などの若年層

- ・就労世代も参加しやすい時間帯の学習機会の提供の充実
- ・公民館の空き部屋の有効活用。
- ・学生が社会教育に関わる機会の増。
- ・今の時代に合わせたつながりやすい関係性の維持や仲間づくりのサポート。

高齢者

- ・高齢者が通いやすいよう、地域別でまとめた社会教育に関する開催情報の発信。
- ・資格取得や収入につながる学習機会の提供。
- ・多世代交流ができる場の設置。

多様な学び手

- ・多様性を意識したつながりあい、そのつながりが継続できる社会を目指した取組の充実・改善

支える人

社会教育士

- ・自治体で働く社会教育主事／社会教育士と市民の立場の社会教育士の協働
- ・称号取得及び取得後の学びの継続に向けた行政による支援のあり方の検討

行政関係職員

- ・行政内の関係部署や外部との連携を強化
- ・アンテナを高くして多様な情報収集に努め、政策の有効性の検証
- ・社会教育に関する研修の実施

地域の人材

- ・横のつながり強化のための地域団体同士の共同プロジェクトの実施。
- ・様々なバックグラウンドを持つ人材が活躍できるような環境を整える。
- ・人材の発掘方法を定型化し、持続的な人材確保に努める。

公民館関係

- ・オンラインの活用により、より多くの方が受講できる機会の充実
- ・公民館専門員個人の力量に頼らない基盤

まとめ

①多様な人々のつながりの重要性

社会教育を通してつながりが生まれるような取組や図書館、公民館といった社会教育施設における**学びの場**を、学校施設や児童関連施設、高齢者施設や文化施設等、**様々な施設に広げ、つなぐことにより市域全体における学びの場の創設と充実を望む。**

②広報等、情報発信の大切さ

本市の社会教育、生涯学習に関する施策や取組を、一元的に所掌する組織的機能や、**生涯学習のセンター的機能が整うことを望む。**その上で、地域における学習の情報が、紙媒体を始め、SNS等活用した**様々なツールによって発信されるよう努められたい。**

③ネットワークづくりの肝要さ

生活スタイルが多様化している現代社会においては、つながり方も多様化しており、今の時代に見合ったつながりづくりを研究し、施策に取り入れてほしい。その際には、つながりづくりに関する**専門的な知見を有する機関や人材とのネットワークの構築を進めることも重要である。**

3章 内容：社会教育で学ぶ多様な人々をつなぐネットワークづくりの方策

広報

市内各地で行われている活動やイベントなどの開催情報をすぐに知ることができ、横のつながりを持つ**一元化された新しいネットワーク網が必要**である。

人々がつながる場

何かを学びたい、市内で活動したいと考える多様な人々に対して的確にアドバイスできる、**ハブ機能の存在が望まれる。**社会教育、生涯学習の学びを求めている人や支える人に適切な場の**情報を提供できる環境や基盤をつくり上げていくことは、多様な人々がつながり続けるための重要なネットワークとなるだろう。**

社会教育は外に出ていく

多様な立場の人々が地域社会の一員として、社会教育を身近なものとして感じ、参加することができるよう、横のつながりの強化と、「**社会教育は外に出ていく**」を実践するための取組が求められる。